

型番	NL-281V-10		
お客様	ご住所	〒 □□□ □□□□ TEL.	
	お名前	様	
保証期間	本体	お買い上げ日から	お買い上げ日
		1年	年月日
販売店	住所・店名	TEL. 印	

■この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて、無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについて、ご不明の場合は、お買い上げの販売店、またはお客様ご相談センターへお問い合わせください。

■お客様の正常なご使用状態で、万一故障した場合は、本保証書記載内容により無料修理いたします。

■左の欄に記入のない場合は有効とはなりませんから必ず記入の有無をご確認ください。もし記入がない場合は、直ちに買い上げの販売店にお申し出ください。本書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

販売店様へ：太ワクの中は必ず記入してお渡しください。

保証規定

- 保証期間内(お買い上げ日より1年間)に、正常なる使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。
 - 修理は、お買い上げの販売店に必ず本保証書をご提示の上ご依頼ください。
 - ご贈答、ご転居の際は、事前にお買い上げの販売店、電気店へご相談ください。
 - 次のような場合には、保証期間内でも有料修理になります。
 - 使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷
 - お買い上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
 - 火災、地震、風水害、落雷、塩害、ガス害、その他天災地変、公害及び異常電圧などによる故障及び損傷
- 二) 車輛、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷

- 腐食による故障及び損傷
- プラスチックの表面(フッ素樹脂加工も含む)及びメッキの摩耗や打痕による損傷
- 本書のご提示がない場合
- 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This guarantee is valid only with in Japan.
- 本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- 出張修理は行っておりません。

年月日	サービス内容	点検印
・		
・		
・		

株式会社 石崎電機製作所

お客様ご相談センター

TEL: 048-931-3110

〒340-0807 埼玉県八潮市新町9

受付時間：月～金の9時～12時/13時～17時

※休日・年末年始・夏季などの休業中を除く

小型真空包装機

NL-281V-10

取扱説明書

このたびは小型真空包装機NL-281V-10をお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。本器の機能を十分に発揮させて効果的にご利用頂くため、また、安全のためご使用前にこの取扱説明書(保証書付)を最後まで必ずお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあと、いつでも必要な時に取り出せるように所定の場所に保管してください。



- 01~03 安全上のご注意
- 03 設置
- 03 準備
- 04 各部の名前とはたらき
- 05 操作パネルの説明
- 06 試し運転
- 07~08 操作手順
- 08~09 清掃と保管
- 09 真空パックのポイント
- 09 電子音「ピー」について
- 10 保守点検
- 11~12 部品交換
- 13 故障かな?と思ったら
- 13 補修部品・別売品
- 14 仕様
- 14 保証とアフターサービス
- 裏表紙 保証書

本器は、真空袋に品物を入れ、真空パックする機器です。

安全上のご注意 (その1)

ご使用前に、「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

表示と意味は次のとおりです。

警告

この表示を無視して間違った取り扱いをすると、使用者や近づいた方が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを表しています。

注意

この表示を無視して間違った取り扱いをすると、使用者や近づいた方が障害を負う可能性が想定されること、また物的損害のみの発生が想定されることを表しています。

※物的損害とは、機械、建物、家屋、家財及び家畜、ペットにかかわる拡大損害を示します。

具体的な絵表示には次の意味がありますので、十分に理解してお読みください。



分解禁止

⊘は、禁止(してはいけないこと)を示します。具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。上図の場合は「分解禁止」を表します。



プラグを抜く

●は、強制(必ずすること)を示します。具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。上図の場合は「差込プラグをコンセントから抜くこと」を表します。

警告

修理技術者以外の人は、絶対に分解・修理を行わない。または改造しない。
感電、漏電、異常動作による事故やけがの原因になります。



分解禁止

子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで使わない。
やけど、感電、けがの原因になります。



禁止

火薬・揮発性引火物・燃えやすい物のあるところでは使用しない。
火災、爆発の原因になります。



禁止

異常・故障時にはすぐに使用を中止し、差込プラグを抜く。
・電源コードを動かすと通電したり、しなかったりする。
・コゲくさい臭いがする。
・電源コードや差込プラグが以上に熱い。
などの症状が出たら、すぐに販売店または「お客様相談センター」へ点検・修理を依頼してください。



必ず行う

注意

フタの上に顔や手等を近づけない。
ロックレバーを外したり、真空パック作業が終了すると、フタが自動的に開くのでけがをする場合があります。



禁止

操作パネル、本体ケースに水をかけたり、水につけたりしない。
本器の故障、漏電、感電事故の原因になります。



禁止

熱い食品などは、10℃以下に冷やしてから真空パックをする。

温度と真空度により沸点が変わるので、食品がふきこぼれる場合があります。ふき出した物がヒーターユニット、電極等に触れると漏電、感電事故や本器の故障の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしない。また重いものを載せたり挟み込んだりしない。
コードが破損し、感電、ショート、火災の原因になります。



禁止

差込プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。電源コードは本体側面プラグ接続器の奥までしっかり差し込む。

感電、ショート、発火の原因になります。



禁止

差込プラグをなめさせない。
乳幼児が誤ってなめないように注意する。感電、けがの原因になります。



禁止

差込プラグにピンやクリップやごみを付着させない。

感電、ショート、発火の原因になります。



禁止

差込プラグのほこり等は定期的に拭き取る。
プラグにほこり等がたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。



禁止

差込プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の差込プラグを持って引き抜く。

感電、ショート、故障の原因になります。



禁止

濡れた手で差込プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。



濡れ手禁止

電源コードや差込プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使わない。

感電、ショート、発火の原因になります。



禁止

アース線をアース端子に接続し、アースを必ず取る。
感電事故の原因になります。



必ず行う

交流100Vのコンセントを単独で使う。

他の器具と併用した分岐コンセントは異常発熱をして発火、やけどの原因になります。



必ず行う

使用時以外は差込プラグを必ずコンセントから抜く。
けが、やけど、絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。



プラグを抜く

異音、異臭、漏電などの異常が発生した場合は、すぐに使用を中止して、電源を切り、差込プラグをコンセントから抜く。

感電、ショート、発火、けが、やけどの原因になります。



プラグを抜く

お願い

- 真空包装する際は必ずナイロンポリ袋をご使用ください。
- 真空パックするときは、必ず「試し運転」をしてから使用してください。(P6「試し運転」をご覧ください)
- フッ素樹脂粘着テープ、圧着シリコンゴム、フタ用パッキンは、つねに清潔にしてください。ゴミ、汚れなどの付着物、傷、へこみなどがあると、きれいに真空パックできません。
- フッ素樹脂粘着テープが焼けたり、穴が開いている場合は交換してください。シール面が波打ったり、粘着度が弱くなり、十分なシールができなくなります。
- 作業中、異常があった場合は、(停止)ボタンを押し、作業を止めてください。P10の「動作不良表示」と、P13の「故障かな?と思ったら」で点検してください。
- フィルターは消耗品です。表面が汚れたり、異物が付着した場合は交換してください。フィルターが詰まった状態で使用すると、所定の真空能力が著しく低下します。
- 真空槽、フタはつねに清潔にしてください。
- ヒーターユニットが傷んだり、消耗した場合や断線の場合は交換してください。ヒーター線のみの交換はできません。ヒーターユニットの交換となります。
- フタ用パッキンに傷や裂けがある場合は交換してください。真空度が不安定になり、十分な真空パックができなくなります。
- 連続使用の場合は、定期的にも器を休ませてください。連続使用は2時間が目安です。(ショット間の休み時間を30秒とした場合)内部機器(真空ポンプ、モーター、トランスなど)が発熱し、本体も熱くなり、各 부품の寿命が著しく低下します。再開する場合は、本体が常温になってから行ってください。
- 必ず定期点検を年1回を目安に実施してください。

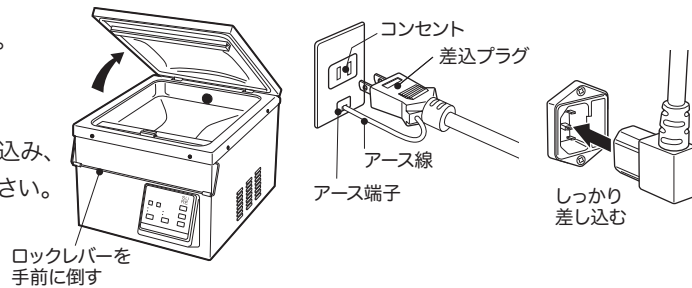
設置

設置上の注意

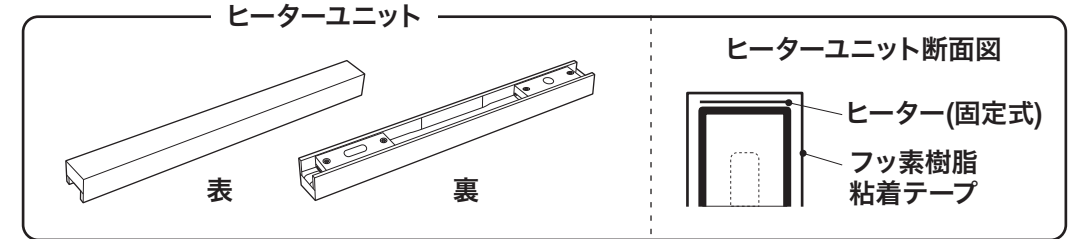
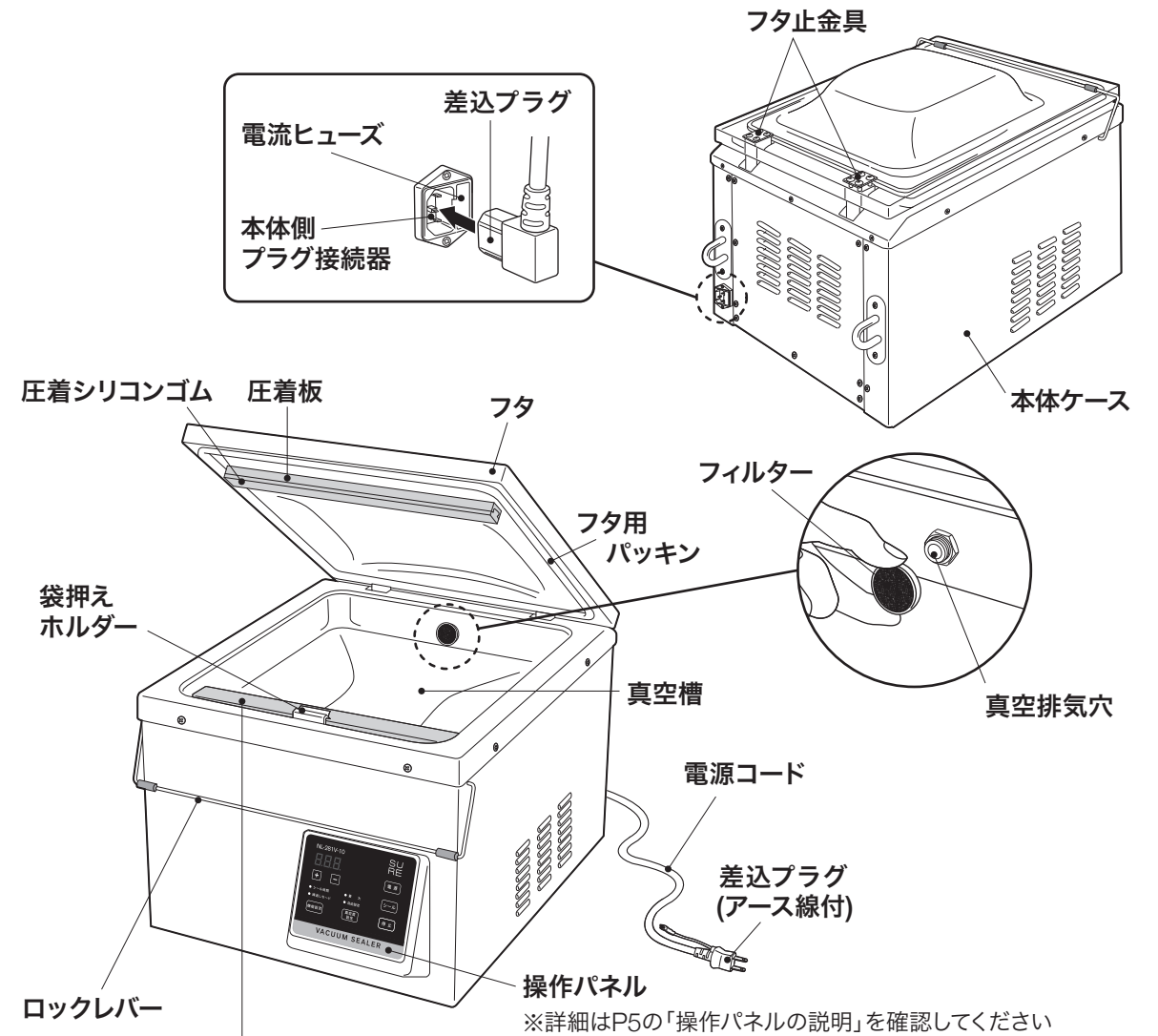
- ・熱気や湿気の少ない水が掛からない場所に水平に設置し、動かないよう固定してください。
- ・本器と他の機器または壁との隙間は5cm以上確保し、本器の上方はフタの開閉ができる空間を確保してください。
- ・設置場所の周囲温度は、5°C~30°Cでご使用ください。

準備

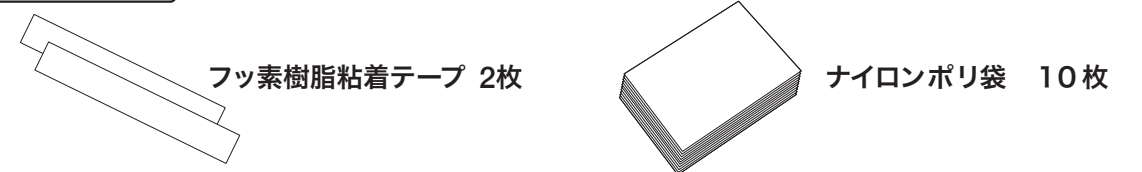
- ① フタのロックレバーを手前に倒してフタを開きます。
- ② 電源コードは本体側プラグ接続器の奥までしっかり差し込んでください。
- ③ 差込プラグを100V15Aのコンセントに単独で差し込み、アース線をコンセントのアース端子につないでください。
- ④ デジタル表示が「OFF」を示します。



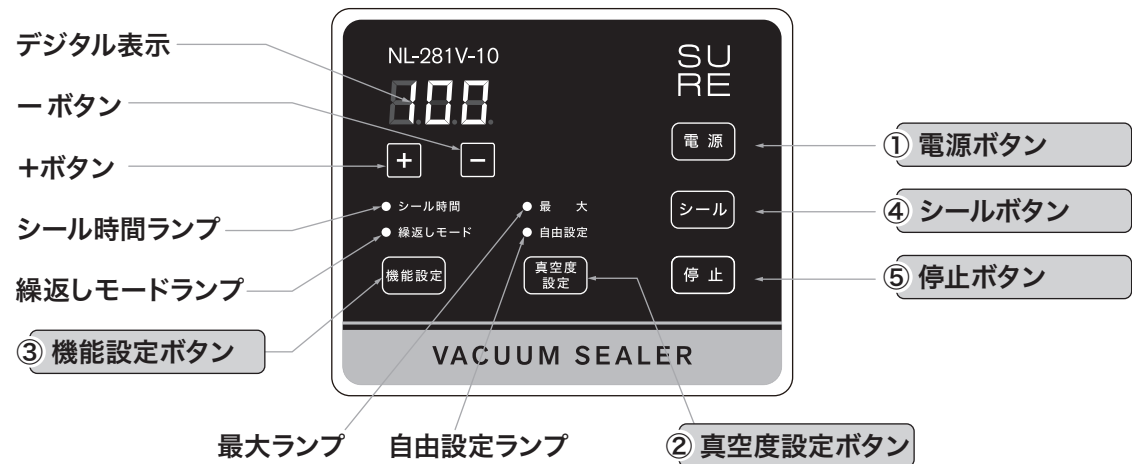
各部の名前とはたらき



付属品



操作パネルの説明



差込プラグをコンセントに差し込むと、デジタル表示は、「OFF」を示します。

- ① **電源ボタン** 電源ボタンを押すとシール時間ランプが3回点滅し、シール時間を表示後、真空度をデジタル表示します。
- ② **真空度設定ボタン** 真空度設定ボタンを押すと最大 / 自由設定で設定が切り替わります。
 - 真空度の設定 **最大の場合:**最大ランプが点灯し「100」を表示します。
自由設定の場合:自由設定ランプが点灯し、(+/-)ボタンを押すと5刻みに「50」～「100」を設定できます。真空度の設定値は「100」で本器の最大真空度の約100%、「50」で約50%を表示します。本器の最大真空度は、約-99kPa(キロパスカル)です。
- ③ **機能設定ボタン** 機能設定ボタンを押すとシール時間 / 繰返しモードで設定が切り替わります。
 - シール時間の設定 シール時間を選ぶとシール時間ランプが点灯します。
(+/-)ボタンを押すと0.5秒毎に「00」～「60」秒を設定できます。
 - 繰返しモードの設定 繰返しモードを選ぶと、繰返しモードランプが点灯します。
「設定真空度で約3分間保持→大気圧付近まで戻す→再度設定真空度にする」の作業を繰り返します。設定は3分間の作業を行う総時間です。
(+/-)ボタンを押すと3分毎に「03」～「30」分を設定できます。
詳細はP8をご確認ください。
- ④ **シールボタン** 真空ポンプ動作中に真空作業を止めてシールする場合は、(シール)ボタンを押します。
真空度設定値より早くシールしたい時、もしくは液体が沸騰して袋からこぼれそうになった時点でシールしたい時に使用します。
- ⑤ **停止ボタン** 作業中、異常があった場合は(停止)ボタンを押します。
(停止)ボタンを押すと作業が中断され、直ちに真空槽内が大気圧に戻り、フタが自動的に開きます。
※運転していない時に(シール)ボタン、(停止)ボタンを押しても何も起こりません。

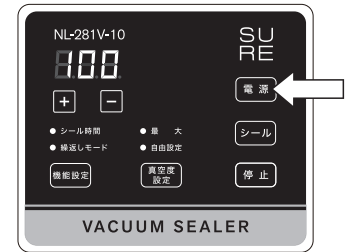
※作業中に停電や間違えて差込プラグが抜かれた場合は作業が中断され、フタが閉じたままとなります。
差込プラグを入れると「OFF」表示後「LP」表示になり、(停止)ボタンを押すとフタが開きます。

試し運転

ご使用前に必ず3回の暖機運転を行い、真空状態と各部が正しく動作することを確認してください。

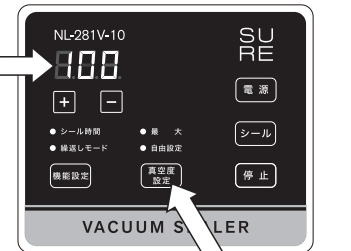
試し運転の方法

① フタを開いた状態で、(電源)ボタンを押します。



② (真空度設定)ボタンを押し、真空度を最大の「100」にします。

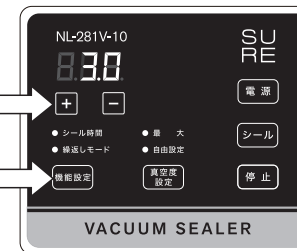
真空度を最大の100に



(真空度設定)ボタンを押し、真空度を最大の100にする

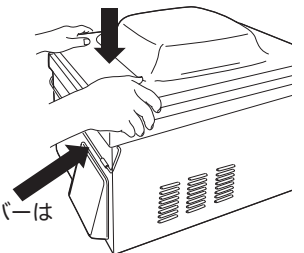
③ (機能設定)ボタンを押してシール時間を選定します。
(+/-)ボタンでシール時間を「30」秒に設定します。

2) (+/-)ボタンでシール時間を3.0秒に設定



1) (機能設定)ボタンでシール時間を選定

押し付けるようにしてフタを閉じる



ロックレバーは掛けない

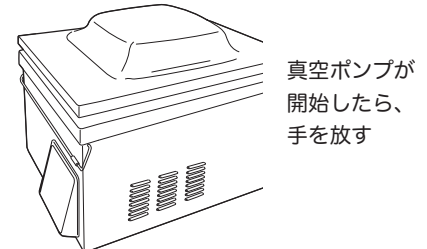
④ 真空槽には何も入れずに試し運転を行います。

- 1)フタを下に押し付けるようにしてフタを閉じます。
ロックレバーは掛けないでください。
- 2)真空ポンプの運転が開始されたら、手を放します。
- 3)デジタル表示が最大の「100」まで上昇します。
- 4)真空ポンプは約1分間運転した後、ヒーターユニット本体が上がり3秒間圧着加熱し、その後冷却の作業を行います。
- 5)真空槽内が大気圧に戻り、フタが自動的に開きます。
- 6)試し運転を終了します。

※正しく試し運転が行なわれない場合は、P13の「故障かな?と思ったら」を参照し、処置してください。

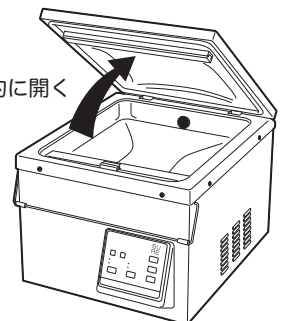
※フタの開閉に十分注意

フタを閉じる時に、指やロックレバー等を挟まないように注意してください。また、作業終了時フタが自動で開きますので、フタの上に顔や手などを近づけないでください。



真空ポンプが開始したら、手を放す

フタが自動的に開く



操作手順

① 作業を開始する

各設定を行います。

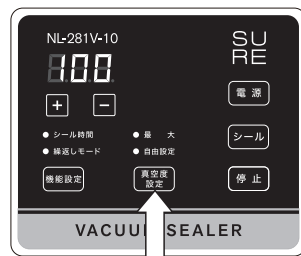
② 真空度を設定する

真空度設定 ボタンを押すと、最大 / 自由設定で設定が切り替わります。

最大は「100」、自由設定は **+** **-** ボタンで「50」～「100」%に設定ができます。

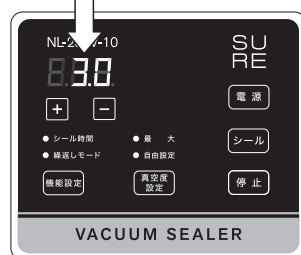
最初は最大を仮設定します。

(真空度は本器の真空到達度に-99kPa以下の%(パーセント)でデジタル表示します。)



真空度設定を
最大の100に仮設定

シーリング時間を3.0秒に仮設定



③ シーリング時間を設定する

機能設定 ボタンでシーリング時間を設定します。

+ **-** ボタンで「0.0」～「6.0」秒の設定ができます。

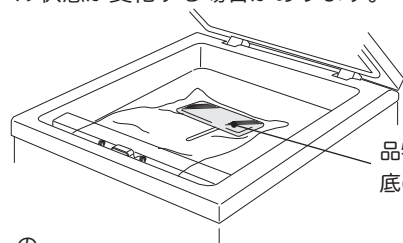
袋の材質、厚さとシーリング時間の例

材質	厚さ	適正シーリング時間(秒)
ナイロン・ポリエチレン	0.075mm × 2枚	3.0
アルミラミネート	0.090mm × 2枚	3.5

※真空袋の材質、厚さ、形状等と電圧変動でシーリング状態が変化することがあります。

④ 真空袋に品物を入れる

品物は袋の底の方に入れてください。

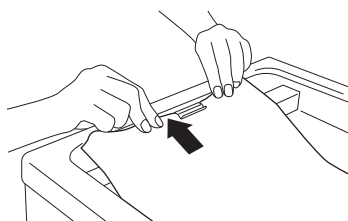


品物は袋の
底の方に入れる

⑤ 袋押えホルダーに真空袋を固定する

ヒーターユニットの手間にある袋押えホルダーの

二枚合わせた上部金具間に、真空袋を二枚合わせて両手で引っ張るようにして真空袋が固定されるまで差し込みます。



⑥ フタを閉じる

真空運転が開始し、真空ポンプ停止後、真空袋がシーリングされます。

途中で止める場合は

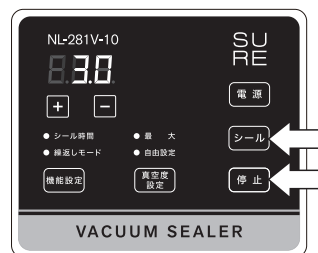
シーリング ボタン: 設定真空度に到達する前に真空運転を止めてシーリングしたい時は

シーリング ボタンを押します。

シーリング完了後、真空槽が大気圧に戻り、フタが自動的に開きます。

停止 ボタン: 真空運転中に異常が発生した場合は **停止** ボタンを押します。

真空運転が停止し、真空槽が大気圧に戻りフタが自動的に開きます。



⑦ シーリングが完了する

真空槽が大気圧に戻り、フタが自動的に開きます。

※フタの上に顔や手などを近づけないでください。

⑧ 品物を取り出す

真空状態、シーリング状態を確認し、不十分な場合は適正な設定に変更してください。

⑨ 電源ボタンを押して作業を終了する

電源 ボタンを押して「OFF」にします。シーリング時間、真空度設定のデータは記憶されるので、次にボタンを押して稼働させる時は、前回の記録された設定値となります。

■シーリング状態の確認

袋開口部を引っ張り溶着されているか確認します。

シーリングが剥がれたり、しわになったり、穴が開いてしまう場合は、シーリング時間を調節してください。

※シーリング状態は、真空袋の材質や厚み、環境(電圧変動、運転時間等)により変化することがあります。



シーリング状況の確認!

■真空状態の確認

真空パックされた品物の真空状態を確認します。

袋の中で品物が動いたり、強く密着してしまう場合は真空度を調節してください。

※品物の種類等により真空度は異なります。

■連続作業について

連続作業の場合は、次の真空パック作業まで約30秒以上間隔を行ってください。

連続運転は2時間以内としてください。

真空ポンプ、モーター等の内部温度が上昇し、劣化や本器の故障、事故の原因になります。

連続運転は
2時間以内

繰り返しモードについて

繰り返しモードは、食品に調味液等の浸透を促進させるときに使用します。

真空ポンプ可動時間を含め、約3分間真空状態を保持した後、大気圧付近まで戻し、再度、真空にする作業を設定した時間内繰り返します。

① **機能設定** ボタンで繰り返しモードを選びます。

② **+** **-** ボタンを押して、「03」～「30」分を設定します。

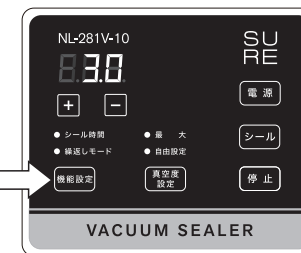
繰り返しモード
「03」～「30」
に設定

繰り返しモード設定値(分)	03	06	09	12	15	18	21	24	27	30
繰り返し作業回数(回)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

③袋に品物を入れてセットします。

④フタを閉じて作業を開始します。

⑤動作が終了すると、フタが開きます。

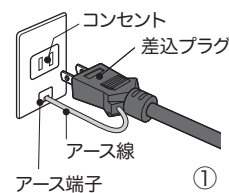


清掃と保管 (その1)

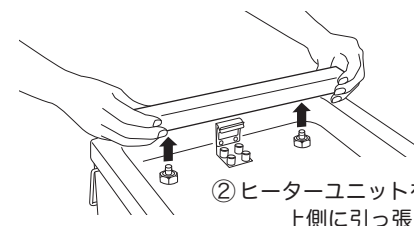
① **電源** ボタンを押して「OFF」にし、アース線をコンセントのアース端子から外し、差込プラグをコンセントから抜きます。

② 真空槽内のヒーターユニットを上側に引っ張り、電極から外します。

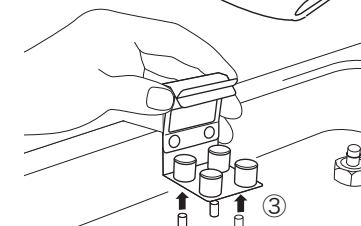
③ 袋押さえホルダーを上方へ引き抜きます。



①



② ヒーターユニットを上側に引っ張り電極から外します

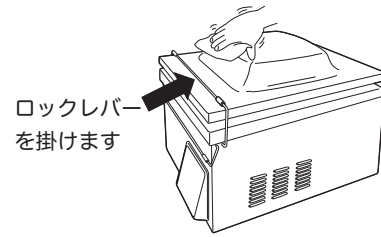


③

清掃と保管 (その2)

④ ヒーターユニット、袋押さえホルダー、圧着シリコンゴム、フタ、本体ケースなどを固く絞った布などで清掃します。

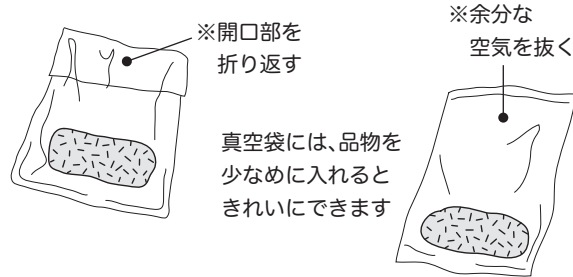
⑤ 袋押さえホルダー、ヒーターユニットを元に戻してフタを閉じロックレバーを掛けます。



真空パックのポイント

■上手な真空パックの仕方

- ① 真空袋の開口部を外に折り返してから品物を入れると、シール部分が汚れることなくきれいにシールできます。
- ② 真空袋に品物を入れた後、余分な空気を抜くと、真空の仕上がりがきれいにできます。
- ③ 真空袋には品物を少なめに入れるときれいにできます。



■液状食品の真空パックの仕方

- ① 液状の食品は、袋の1/3程度の量で行ってください。
- ② 液状の食品を入れた真空袋を真空槽に入れ、袋押さえホルダーにセットします。
- ③ **真空度設定** ボタンを押して、最大「100」にします。
- ④ **機能設定** ボタンを押してシール時間を選び、使用する真空袋の適正時間に設定します。
- ⑤ フタを閉じ、真空ポンプが運転を開始したら、液状の真空状態を監視します。
- ⑥ 液体が沸騰して真空袋からこぼれない程度の時に**シール** ボタンを押し、その時のデジタル表示の数値を記録します。
- ⑦ 真空パック状態を確認します。
- ⑧ 真空度設定を自由設定にし、記録した数値を設定します。

※液体の沸点は真空度(低圧)と温度の比率で決まります。高温の液体を真空パックすると液体はすぐに沸点に達し、沸騰します。

※食品が沸騰すると気泡が出て、袋から食品が吹きこぼれることがあります。食品の温度を10℃以下に下げてください。

※真空度の設定値は、沸騰し始めたら吹きこぼれる前に止まるように設定してください。

吹き出したものが真空ポンプに入ると、ポンプの故障の原因となります。

※真空処理時間は使用環境や大気圧により異なります。

※使用環境が変わった場合、必ず試し運転を行い、真空度、シール時間の設定を再度行ってください。

電子音について

運転状態を監視確認するため、お知らせの電子音ができます。(初期設定)

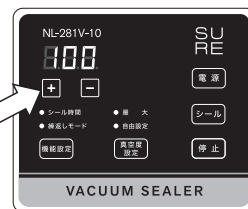
真空ポンプ運転時、真空度15%の時、および50%の時に電子音が1回なります。

真空、シール作業が終了してフタが開き、次の操作が可能になると電子音が3回なります。

電子音の有、無の選択ができます。

- ① **電源** ボタンを押して「OFF」にします。
- ② **+** **-** ボタンを同時に2秒以上押しと、電子音が鳴り、デジタル表示が「000」を示します。
- ③ 片方のボタンから指を離すと「OFF」を示し、電子音が鳴らない設定になります。再度 **+** **-** ボタンのどちらかを押しと、「0n」になり、電子音が鳴る設定になります。
- ④ 設定が完了したら**電源** ボタンを押して「OFF」にします。

+、- ボタンを同時に2秒間押し



保守点検

- 日々のご使用回数によって部品等の交換時期は変わります。必ずご使用前に保守点検を行い、安全に正しくご使用ください。
- 日々の作業を能率的に行うために、右の保守点検表に従い点検してください。
- 万一異常のある場合は使用を中止し、P13「故障かな?と思ったら」を確認してください。
- 修理を依頼する場合は、販売店にご連絡してください。

点検時期		点検項目
毎日	使用開始前	・必ず設置場所、本器の状態、電源コード、差込プラグ、フッ素樹脂粘着テープなどの点検をし、正常に動作することを確認してください。
	使用后	・P8~P9の「清掃と保管」に従って清掃してください。
毎週		・フッ素樹脂粘着テープに焼け、汚れ、破れがないかを確認してください。 ・フタのパッキンに傷や裂けがないか確認をしてください。 ・フタにひび割れがないか点検をしてください。 ・フィルターに汚れ、詰まりがないか確認をしてください。
半年毎		・圧着シリコンゴムに損傷がないか確認してください。 ・フタのパッキンを交換してください。
1年毎		・販売店またはお客様ご相談センターへ本器の点検を依頼してください。

動作不良表示

動作不良が表示された場合は、下表にて対応してください。

表示記号	現象	原因	処置
E01	真空度が設定値に到達しない	①フタが閉じていない	フタを確実に閉めてください
		②パッキンの取付け方が悪い、またはキズがある	パッキンを取り付け直すか、交換してください
		③真空ポンプの不良	修理に出してください
		④真空計の不良	
		⑤ホース、電磁弁、配線等の不良	
E02	フタを閉じてても運転が始まらない	①フタが完全に閉じていない	フタを確実に閉めてください
		②マイクロスイッチが動作していない	修理に出してください
LP	運転中に電源が切れた(電源復帰後に表示)	③電源コードが外れる、または停電	電源復帰後停止ボタンを押してください

部品交換

部品の交換方法

※作業する時は、必ず差込プラグをコンセントから抜いてください。

※間違った方法で部品の交換を行なうと、本器が正常に動作しないばかりか、感電、火傷になる危険性があります。

※必ず弊社指定の部品をご使用ください。

指定外の部品を使用すると本器の性能が正しく発揮されないだけでなく故障の原因にもなります。

1 フッ素樹脂粘着テープ

点検 フッ素樹脂粘着テープに焼け、汚れ、破れがないかを確認し、きれいにシールできなかったり、フィルムがくっついたりする場合は交換してください。

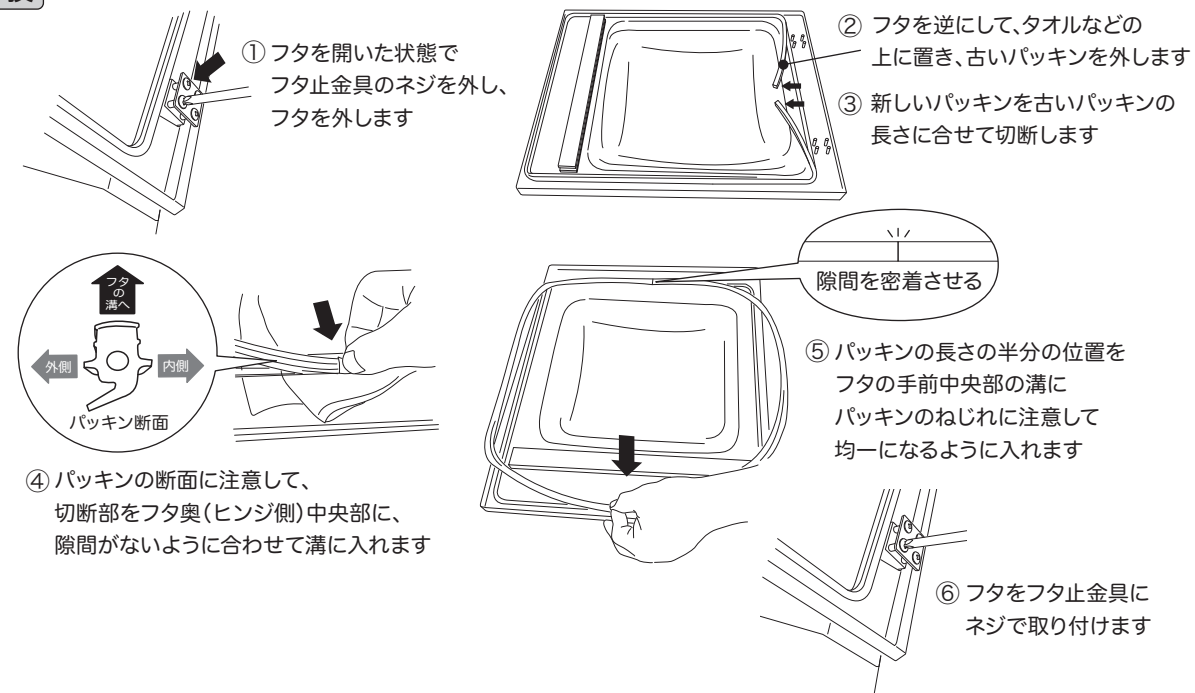
交換



2 フタ用パッキン

点検 真空状態が不完全な時は、フタ用パッキンに傷や裂けがないか確認し、交換してください。

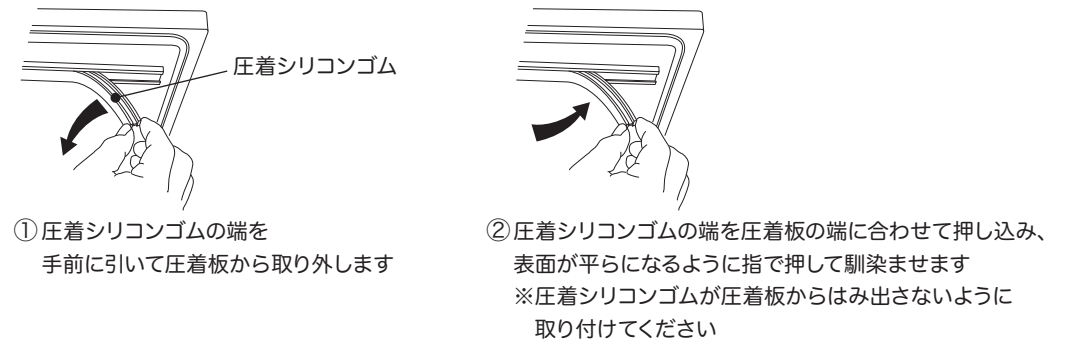
交換



3 圧着シリコンゴム

点検 シール面が波打っている、汚れている、フィルムがくっついたりする場合は、圧着シリコンゴムを交換してください。

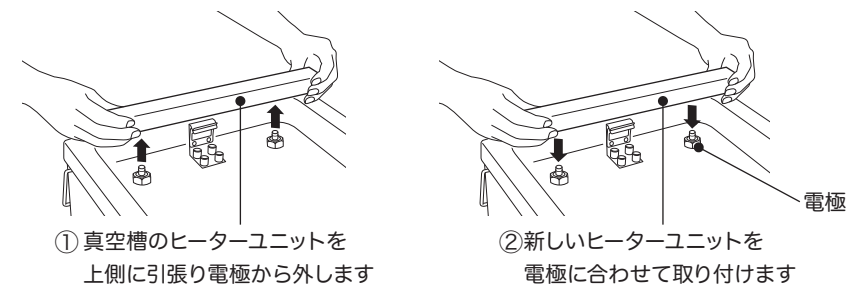
交換



4 ヒーターユニット

点検 ヒーター線が断線したり、シールができない時は、ヒーターユニットを交換してください。

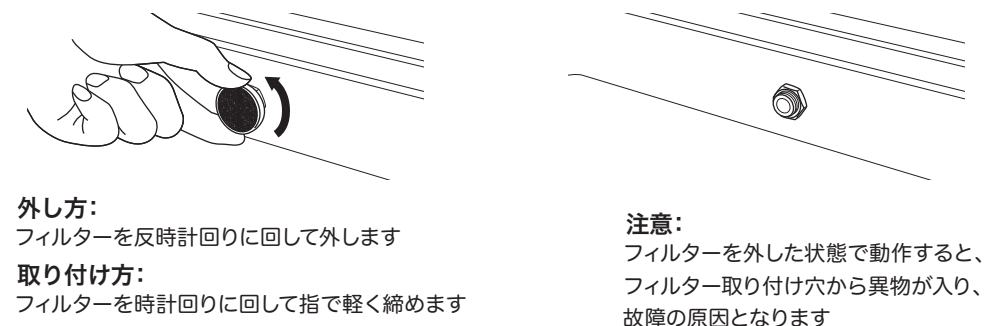
交換



5 フィルター

点検 真空状態が弱くなっている場合は、フィルター表面に汚れや詰まりがあるかを確認し、フィルターを交換してください。

交換



故障かな?と思ったら

電源コードをコンセントに差し込み、下記の故障状況を確認してください。
部品交換を行うときは、必ず差込プラグをコンセントから抜いて行ってください。

調べる ところ	原因・処置										
	電源が入らない	デジタル表示 されない	真空度シール 時間が設定できない	ポンプが動かない	真空にならない	真空度が 上がらない	シールができない	シールがきれいに できない	シールが終わっても フタが開かない	動作しない	本体が熱い
差込プラグ	●	●									本体側およびコンセント側の差込プラグを確実に差し込んでください。
電流ヒューズ	●	●									電流ヒューズを確認し、切れている場合は修理に出してください。
フタ					●						フタがきちんと閉じているか確認してください。
フタ用パッキン					●	●					傷、裂けがあれば交換してください。
圧着シリコンゴム							●				傷、裂けがあれば交換してください。
フィルター							●				汚れ、詰まりがあれば交換してください。
真空度設定					●	●					真空度設定値を再度調整してください。
シール時間設定							●	●			シール時間設定値を再度調整してください。
基板	●	●	●	●	●		●		●	●	操作パネルを確認して、異常があれば修理に出してください。
ヒーターユニット							●	●			ヒーターの断線、傷、変色している場合は交換してください。
フッ素樹脂粘着テープ								●			破れ、しわ、ざらつき、変色がある場合は交換してください。
マイクロスイッチ				●							フタを閉じた時、内部から「カチッ」と音がしなければ、故障の可能性があります。修理に出してください。
真空ポンプ				●	●	●					真空ポンプが動作しない場合や、動作はするが真空度が上がらない場合は修理に出してください。
作業状況										●	連続作業を止めて本器を常温になるまで休ませてください。

補修部品・別売品

No.	型番	部品名
1	NPT-280	フッ素樹脂粘着テープ 2枚
2	NPH-U280	ヒーターユニット 1本
3	NPP-280	フタ用パッキン 1本
4	NPG-280	圧着シリコンゴム 1本
5	NPB-281	袋押えホルダー 1個
6	NPF-281	フィルター 1個

仕様

品名	小型真空包装機	フタ材質	透明合成樹脂
型番	NL-281V-10	到達真空度	約-99kPa以上
電源	AC100V 50/60Hz	脱気速度	約77ℓ/分
定格消費電力	ヒーター加熱時:1200W 真空ポンプ運転時:370W / 420W	連続使用時間	2時間(ショット間休止時間:30秒) (約100ショット)
シール寸法	長さ280mm×幅10mm	真空ポンプ	オイルレス
接着部の温度	約250℃	製品寸法	幅372×奥行503×高さ358mm (フタ開時高さ540mm)
真空設定	最大:100% 自由設定:50%~100%	質量	約25kg
シール時間	0~6.0秒(0.5秒間隔)	電源コード	3芯キャブタイヤ VCTF 1.25mm ² 有効長1.8m
繰返しモード	3~30分(3分間隔)	電源ヒューズ	250V 15A
冷却時間	2秒	付属品	フッ素樹脂粘着テープ 2枚 ナイロンポリ袋 10枚
真空槽寸法	幅300×奥行350×高さ135mm		

保証とアフターサービス

■修理・お取扱い・お手入れなどのご相談
お買い上げの販売店にお申し付けください。

■修理を依頼される時

使用中に異常が生じた場合は、必ず差込プラグをコンセントより抜いて
お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証書(裏表紙)

必ず「お買い上げ日、販売店」の記入をご確認の上、
お買い上げ販売店から受け取り、内容をよくお読み
の上、大切に保管してください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、お買い上げ販売店に修理を依
頼してください。製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料
で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品の最低
保有期間は、製造打ち切り後5年です。

注)性能部品とは、その製品の性能を維持するために必要な部品です。

●保証期間:お買い上げ日から1年間

詳しくは裏表紙の保証規定をご確認ください。

お客様ご相談センター

TEL: 048-931-3110

〒340-0807 埼玉県八潮市新町9

受付時間:月~金の9時~12時/13時~17時

※祝日・年末年始・夏季などの休業中を除く

廃棄処分
について

本製品を廃棄する場合は、産業廃棄物として取り扱われます。
専門の業者またはお求めになった販売店にご相談ください。

株式会社 石崎電機製作所

本社

〒111-0051

東京都台東区蔵前3-5-15

東日本営業所

〒111-0051

東京都台東区蔵前3-5-15

TEL.03-5687-7031

西日本営業所

〒550-0013

大阪市西区新町1-25-7

TEL.06-6541-3893

公式ホームページ



www.sure.ishizaki.co.jp